

地域における自主活動グループの育成・支援について

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる町を目指し、地域包括ケアシステム推進の一環として、地域における自主活動グループの育成・支援活動を実施

認知症予防自主活動グループ「上新町健遊会」

(目的)グループ活動を通して頭を鍛え、健康寿命の延伸に努めるとともに、みんなで助け合い、会員の絆を深めよう！
※ 楽しく、新しいことも取り入れながら、認知症予防活動を継続して、地域に広めよう！



きっかけ

町が行った研修会を契機に、予防活動の実践に賛同した方を募り「健遊会」の自主活動がスタート

活動は10年を経過し、活動継続中。町は後方支援中！

現在



◆活動内容

転倒予防体操・グランドゴルフ・ウォーキング・レクリエーション・手工芸・お茶・お花・奉仕活動(高齢者への声掛け、手工芸作品の寄贈、認知症サポーター養成講座受講・健康まつりへの参加等)



今後の
取り組み

- 「健遊会」の新規参加者拡大と会の維持・継続支援
- 自主活動組織を他の町内に広めていくための活動強化



地域包括ケアシステム構築に向けた取組事例（様式）

① 市町村名	おいらせ町
② 人口（※1）	24,998人 (平成25年3月31日現在)
③ 高齢化率	(65歳以上) 21.64 (75歳以上) 10.56 (平成25年3月31日現在)
④ 取組の概要	認知症対策の一環として、一町内で実施した認知症予防教室をきっかけに、町立病院と町が組織の立ち上げに関わり、自主活動グループ「上新町健遊会」が結成された。発足から既に10年を経過しているが、現在も活動を続けており、町はこのような自主組織を他の地区にも増やして、地域づくりの強化につなげていきたいと考えて、支援活動を継続している。
⑤ 取組の特徴	「上新町健遊会」が年間活動計画を立て、町立病院理学療法士と地域包括支援センターが第二火曜日の一部事業を支援している。 第一火曜日：野外活動を中心にグラントゴルフ、ウォーキング、レクリエーション等実施。 第二火曜日：転倒予防体操、健康相談、学習会、お茶、お花など室内活動を中心 その他に認知症サポーター養成講座の受講や、健康まつりでの活動PR、町内会高齢者との交流会、手工芸品を作製し公共施設へ寄贈するなどを通じて、会の普及啓発活動につなげている。
⑥ 開始年度	平成14年4月
⑦ 取組のこれまでの経緯	平成13年度に行った医師による認知症予防講話を契機に、予防活動の実践に賛同した方を募り平成14年4月に「健遊会」の自主活動がスタートした。 当初は町基幹型在宅介護支援センターと町立病院医師が中心となり認知症予防活動を2年間実践した。その後自主活動に完全移行させ、町内会からの支援も得ながら、認知症予防活動を続けている。 会員相互の健康づくりはもとより町内会高齢者への声かけ、手工芸品の寄贈、認知症サポーター養成講座の受講、健康まつりへの参加など、認知症予防の重要性を積極的に啓発し、実践を通じて地域へ貢献している。
⑧ 主な利用者と人数	現在会員数は29名
⑨ 取組の実施主体及び関連する団体・組織	実施主体「上新町健遊会」
⑩ 市区町村の関与（支援等）（※2）	町立病院理学療法士：転倒予防体操実施に支援 地域包括支援センター：健康相談に従事すると共に、活動全般に関する相談に対応
⑪ 国・都道府県の関与（支援等）（※3）	なし
⑫ 取組の課題	「健遊会」発足当初からの会員が大多数で全員が65歳以上と高齢化しているため、新規参加者の拡大と会の維持・継続が課題である。また、町は自主活動グループの育成を目指しているが、拡大につなげられずにいる。
⑬ 今後の取組予定	町は「健遊会」の新規参加者拡大と会の維持・継続に向けて支援を継続していく。 自主活動組織育成に向け、実現につながりそうな町内会を選定し、事業展開を企画していく。
⑭ その他	
⑮ 担当部署及び連絡先	おいらせ町地域包括支援センター 電話 0178-52-7086 FAX 0178-56-4261

おいらせ町地域ケア会議

地域ケア会議(本会議)

3ヶ月に1回

構成員：医師・保健師・看護師・PT・ケアマネージャー
社会福祉協議会・民生委員・町内会代表
包括職員(保健師、主任ケアマネ、社福士)

- 地域課題の把握および地域資源の開発
- 町へ施策の提案

提案・協働

在宅介護支援センター一部会

月1回

在宅介護支援センター 3か所

- 支援困難事例の検討
- 実態把握調査の報告

介護支援専門員部会

月1回

居宅支援事業所 10事業所

- 給付適正化の事業者指導
- 支援課題の検討

情報の提供・共有